

10 学生の確保の見通し等を記載した書類

聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）
学生の確保の見通し等を記載した書類

<目次>

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ P. 2

ウ 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

②学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・ P. 6

③人間健康福祉学部社会福祉学科の定員未充足について・・・・・・・・ P. 6

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・ P. 8

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・・・・・ P. 9

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 近隣の看護系大学院の状況

本大学院看護学研究科（以下、「本大学院」）を設置する松山市は、四国地方で最大の都市であり、愛媛県の全人口 132 万人のうち 51 万人弱（約 38%）の人口を擁する中核市である。本大学院は、この松山市の中心部に位置する聖カタリナ大学松山市駅キャンパス（資料 1、以下「松山市駅キャンパス」）に設置する。

愛媛県内において看護系大学院を設置している大学は、令和 2 年 4 月現在、2 校（国立 1 校、公立 1 校）のみで、私立大学によって設置された看護系の大学院はない。これらの大学院の博士前期課程（修士課程）の入学定員は、国立 12 人、公立 5 人である（表 1）。これら 2 校の過去 5 年間の入学者の状況は、資料 2 に示す通りである。愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻の入学定員の超過率はやや低いが、これは入学定員が比較的多いことにも起因していると考えられる。一方、愛媛県立医療技術大学大学院保健医療学研究科看護学専攻は、過去 5 年間の平均で 1.04 と入学定員を確保している。

表 1 愛媛県内の看護系大学院入学定員

設置	大学院名	研究科名	専攻名	入学定員	
				博士前期課程（修士課程）	博士後期課程
国	愛媛大学大学院	医学系研究科	看護学専攻	12	2
公	愛媛県立医療技術大学大学院	保健医療学研究科	看護学専攻	5	

2) 定員設定の考え方

本大学院は、上記の近隣大学院の状況、本大学院の教員体制及び教育施設等を勘案した上で、最大限の教育効果が得られる人数及び後述する学生確保の見通しに鑑み入学定員を 5 人とした。また、本大学院は、地域包括ケアシステムの構築に寄与できる実践的な力を持った高度専門職業人の養成を目指していることから、入学者の多くは一定の実務経験を持つ有職者であることが想定される。このため、本大学院は、大学院設置基準第 14 条の教育方法の特例の適用及び長期履修制度を設けることにより在職のままの学修が可能となる配慮を行う。

また、本大学院では、聖カタリナ大学人間健康福祉学部に所属する福祉系、社会系、心理系、スポーツ系の教員がおり、これらの教員が本大学院の教育に参加することによって地域包括医療の前提となる知識や姿勢について学ぶことが可能となっている。愛媛県内の上記2校の大学院においても地域包括ケアに関する教育は行っているが、県内の高齢化の状況から見て、その養成人材数は圧倒的に少ないと考える。本大学院では、地域からの要望が多い地域包括ケアに関する学習ニーズに対応できるよう保健医療福祉において連携・協働を推進し、地域包括ケアの中で役割を發揮できる研究能力をもつ、高度な看護実践能力を備えた人材を育成することに尽力する。

一般に看護系の大学院に入学する大学院生の多くは、有職者が多い。このため、通学の利便性は、大学院の選択に少なからず影響するものと考えられる。資料3に本大学院と上記の2大学院の位置関係を示す。資料3に見られるように、これら2校の大学院は、多くの病院が設置されている松山市から離れており交通の利便性が悪い。具体的には、愛媛大学大学院（医学系研究科看護学専攻）は、松山都市圏の電車及びバスのターミナル駅である「松山市駅」から郊外電車で28分徒歩5分の東温市にあり、愛媛県立医療技術大学は、同じく「松山市駅」からバスで30分徒歩10分の砥部町にある。一方、本大学院を設置する松山市駅キャンパスは、県都である松山市の中心部に位置する「松山市駅」から徒歩1分の位置にある。松山市駅キャンパスの近隣には、2つの地域医療支援病院の他40程度の病院があり、入学者として想定している病院勤務者が多数勤務している。このような地理的条件からも一定の入学者が期待できるものと考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本大学院への入学意向を把握するため、聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科在学生（1～4年次生）及び愛媛県内所在の病院、養成学校等医療関連施設等176施設に勤務する看護職、看護教員に対してアンケート調査（『聖カタリナ大学大学院看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告』）を実施した（資料4）。調査は、令和2年12月から令和3年2月の期間であった。調査方法は、聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科在学生（1～4年次生）に対しては、アンケート用紙及び本大学院の概要を記した資料を配付し、大学内の教室において直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。回答用紙は大学が取りまとめ、一般財団法人日本開発構想研究所へ大学から郵送し集計を行った。愛媛県内所在の病院、養成学校等医療関連施設等に対しては、施設の看護管理者へ依頼し、当該施設に勤務する看護職、看護教員に対し、アンケート用紙及び本大学院の概要を記した資料を配付して、アンケート調査を実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ回答者から直接郵送し、集計を行った。有効回答者は、聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科在学生（1年～4年次生）は、223人中223人、病院、養成学校等医療関連施設等は3,451人中1,505人、合計1,728人であり、有効回収率

は約 47.0%であった。以下に、一般財団法人日本開発構想研究所作成のアンケート報告に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。なお、本調査においては、中・長期的な入学者の傾向も把握することを意図したため、令和 4 年度の大学院設置時の入学の対象とはならない看護学科の 1、2 年生も対象としているが、入学意向と回答者の属性をクロス集計し、入学者層についての分析を行っている。

1) 本大学院への興味・関心について

本大学院への興味・関心については、回答者 831 人のうち、「大いに興味・関心がある」と回答したのは 33 人 (4.0%) であり、「興味・関心がある」106 人 (12.8%)、「すこし興味・関心がある」311 人 (37.4%) との回答があった。「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」の合計 450 人 (54.2%) が本大学院に興味・関心を示している。

2) 興味・関心の理由について

本大学院への興味・関心を示した 450 人の理由 (第 1 理由) としては、「働きながら学べる」が 95 人 (21.1%) と最も多く、次いで「興味のある看護分野が学べる、あるいは研究ができる」89 人 (19.8%)、「新しく設置される研究科だから」88 人 (19.6%)、「教育内容に関心がある」63 人 (14.0%)、「学位を取得したい」50 人 (11.1%)、「立地 (松山市駅) が便利」25 人 (5.6%)、「聖カタリナ大学の大学院だから」16 人 (3.6%)、「丁寧な指導が期待できる」15 人 (3.3%)、「学費が適正だから」8 人 (1.8%) の順になっている。

3) 本大学院への入学意向について

本大学院への入学意向については、回答者 673 人のうち、「入学を希望する」が 56 人 (8.3%)、「開設時ではないが、5 年以内の入学を検討する」が 29 人 (4.3%)、「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」が 322 人 (47.8%) となり、程度の差はあるものの合計 407 人 (60.5%) が本大学院への入学意向を示している (表 2)。

また、本大学院へ入学意向を示した 407 人について、学びたい分野の内訳をみると、本大学院の教育分野である「療養支援看護学分野」と「特定実践支援看護学分野」についてバランスよく入学意向者がいること、また、5 年以内及び将来的にも入学を検討する者も多く、本大学院の中・長期的な学生の確保の可能性が示されている。

表2 「入学意向」と「学びたい分野」

上段:度数 下段:%		入学意向			
		合計	入学を希望する	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	将来、必要を感じた場合には入学を検討する
学びたい分野	全体	407 100.0	56 13.8	29 7.1	322 79.1
	療養支援看護学分野	180 100.0	31 17.2	9 5.0	140 77.8
	特定実践支援看護学分野	223 100.0	24 10.8	20 9.0	179 80.3
	無回答	4 100.0	1 25.0	0 -	3 75.0

また、「対象者」と「入学意向」(表3)に示されるように本大学院への「入学を希望する」と回答した者は、大学院設置時の入学対象とはならない看護学科の1、2年生を除いて52人おり、本大学院の入学定員5人に対して約10.4倍の入学希望者がいる。また、看護師のみに絞っても5年以内の入学を希望する者は24人、必要性を感じた場合には入学を検討すると回答した者が261人いた。看護職と、学生の内訳を見ると、本大学院が想定しているとおり、看護職の入学希望は多い。学生は臨床経験がない状態での回答であり、1年生、2年生は設置時の入学には接続しないが、それぞれ少なからず入学意向を示しており、将来的に一定数の入学も見込まれると考える。

表3 「対象者」と「入学意向」

上段:度数 下段:%		対象者										
		合計	看護師として勤務	保健師として勤務	助産師として勤務	その他の看護職・技術職として勤務	看護教員として勤務	その他	看護学科1年次生	看護学科2年次生	看護学科3年次生	看護学科4年次生
入学意向	全体	673 100.0	548 81.4	1 0.1	9 1.3	1 0.1	11 1.6	-	35 5.2	15 2.2	20 3.0	33 4.9
	入学を希望する	56 100.0	45 80.4	-	1 1.8	-	2 3.6	-	4 7.1	-	1 1.8	3 5.4
	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	29 100.0	22 75.9	-	-	-	2 6.9	-	2 6.9	3 10.3	-	-
	将来、必要を感じた場合には入学を検討する	322 100.0	255 79.2	-	2 0.6	1 0.3	3 0.9	-	15 4.7	9 2.8	15 4.7	22 6.8
	入学を希望しない	50 100.0	45 90.0	1 2.0	1 2.0	-	1 2.0	-	1 2.0	-	-	1 2.0
	わからない	205 100.0	173 84.4	-	5 2.4	-	3 1.5	-	11 5.4	3 1.5	4 2.0	6 2.9
	無回答	11 100.0	8 72.7	-	-	-	-	-	2 18.2	-	-	1 9.1

「看護職実務経験年数」と「入学意向」(表4)では、社会人の入学条件として設定している看護職の経験年数が3年以上の者について本大学院への「入学を希望する」が46人、また、5年以内の入学を希望する者が23人、必要性を感じた場合には入学を検討すると回

答したものが 234 人いた。このように本大学院が主として想定する「有職者で、一定の経験を持つ看護師」の将来的な入学者は、一定程度見込める結果となっている。

表 4 「看護職実務経験年数」と「入学意向」

上段:度数 下段:%	看護職実務経験年数						
	合計	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年以上	無回答
全体	570 100.0	22 3.9	29 5.1	55 9.6	97 17.0	366 64.2	1 0.2
入学を希望する	48 100.0	1 2.1	-	5 10.4	6 12.5	35 72.9	1 2.1
開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	24 100.0	-	1 4.2	2 8.3	3 12.5	18 75.0	-
将来、必要を感じた場合には入学を検討する	261 100.0	12 4.6	15 5.7	25 9.6	53 20.3	156 59.8	-
入学を希望しない	48 100.0	1 2.1	1 2.1	7 14.6	5 10.4	34 70.8	-
わからない	181 100.0	8 4.4	12 6.6	15 8.3	30 16.6	116 64.1	-
無回答	8 100.0	-	-	1 12.5	-	7 87.5	-

ウ 学生納付金の設定の考え方

本大学院の学生納付金は、現場で働く社会人に広く門戸を開き、修学の機会を提供することを主眼として設定している。愛媛県において看護学系の大学院（修士課程・博士前期課程）を設置しているのは、国立大学法人愛媛大学大学院と愛媛県立医療技術大学大学院の 2 校である。これらの大学院は国公立のため、多くの私立看護系大学院に比較して学生納付金は低く設定されている（表 5）。本学は私学であるが、社会人に広く学んでほしいという願いのもと、教育の質を確保しつつ、これらの競合校の学生納付金を考慮して、社会人学生の過重な負担とならない学生納付金を設定した。なお、本学と連携協力に関する協定書を交わしている施設及び本学看護学科学生の実習を委託している施設の職員、看護師養成学校の教員及び本学卒業生（卒業見込みを含む）は、入学金を免除する。

表 5 本学大学院と競合する大学院の学納金

設立	大学院・研究科・専攻名	入学定員（修士・博士前期）（人）	入学金（万円）	授業料（万円）	初年度納付金（万円）
私立	聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻（仮称）	5	20	50	70
国立	愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻	12	28.2	53.58	81.78
県立	愛媛医療技術大学大学院保健医療学研究科看護学専攻	5	県内：28	53.58	81.78
			県外：42		95.88

※他大学については、各大学 HP（令和 2 年 4 月現在）から本学が作成。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本大学院の学生確保の取組としては、大きく「広報・募集活動における取組」、「受験・入学に際した取組」、「修学支援に関する取組」がある。まず、「広報・募集活動における取組」では、本学看護学科の臨地実習の受入れ先の病院や施設の看護職の方々を対象としての絞った広報・募集活動を計画している。具体的には、「入学意向に関するアンケート調査」を実施した病院・施設及び愛媛県看護協会を通じた広報・募集活動を行っていく計画である。この広報・募集の方針は、本大学院が入学者として主に想定している「有職者で、一定の経験を持つ看護師」が一定程度見られたという「入学意向に関するアンケート調査」の結果からも適切と考えられる。また、聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科の教員は、複数の病院や看護協会にて研究指導を行っているため、このような場においても大学院での学びをPRする予定である。なお、本学看護学科の学生に対しては、全学年に対して教員から大学院に関する情報を周知していく方針である。なお、3月の設置認可申請書類の提出を行ったのち、大学WEBサイトに本大学院の設置計画（設置構想中）についての特設ページを設け告知を行う。5月中旬以降では、本大学院の設置の趣旨、養成する人材像、教育課程や学習環境などを分かりやすく掲載した大学院の案内パンフレットを作成し、上述の入学が見込まれる病院・施設等に教員・入試課員が訪問し説明を行う。

「受験・入学に際した取組」としては、本学の学部入試においては、WEB出願システムを採用しているが、大学院においてもこのシステムを利用し出願の利便性を図る。また、前述のように本学と連携協力に関する協定書を交わしている施設及び本学看護学科学生の実習を委託している施設の職員、看護師養成学校の教員及び本学卒業生（卒業見込みを含む）は、上述のように入学金を免除とすることによって、入学時の負担を減じる対応をとる。

「修学支援に関する取組」としては、本大学院では、大学設置基準第14条による昼夜開講を実施するとともに、長期履修制度を設けることにより、社会人学生が無理なく修学する環境を整える。また、学習環境については、松山市駅キャンパス図書館分館の閉館時間を延長し、夜間に授業を受ける学生の便宜を図る。

③人間健康福祉学部社会福祉学科の定員未充足について

1) 原因の分析

本学人間健康福祉学部設置している4学科（社会福祉学科、人間社会学科、健康スポーツ学科、看護学科）の令和2年度の入学定員250人に対する入学者は239人であり、入学定員超過率は95%となっている（資料5）。しかし、この4学科の内、社会福祉学科においてのみ令和2年5月1日現在、過去4年間の入学定員の超過率の平均が0.7未満（0.64）となっている。以下、この社会福祉学科の定員未充足の原因及びこれまでの取組、将来の取組について記す。

社会福祉学科の定員未充足の主な外部要因としては「社会における福祉分野の仕事に対する否定的なイメージの影響」、「18歳人口の減少」及び養成している資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）が名称独占資格であるという資格の性質が挙げられる。一方、内部的要因としては、学科の教育内容、適切な入学定員の管理、定員確保に関する中・長期的なビジョンに基づく学科の方針が欠如していた点が挙げられる。

2) 近年の取組

上記のような社会福祉学科の状況に対して、これまで実施した主な取組としては、「入学定員」及び「教育課程」の見直しが挙げられる。入学定員については、令和2年度の入学生から60人（前年度までは70人）に変更し、「教育課程」については、令和3年度から社会福祉士養成課程の新カリキュラムが施行されることに伴い専攻制（社会福祉専攻と介護福祉専攻）を廃止し、入学後に自分の興味・関心に応じて学習内容を選択できる教育課程に改編する。具体的には、大学において社会福祉系の国家試験受験資格の取得が可能な社会福祉学科として、その魅力を高めるために、「えひめの福祉」「ソーシャルワーク入門」の2科目を新設した。「えひめの福祉」では、愛媛県内の行政・社会福祉施設関係者より、各地域の社会福祉の現状や専門職の活動について講義を受ける。また、「ソーシャルワーク入門」では、社会福祉学科の全教員がそれぞれの専門領域及び担当資格に関する講義を行うことで、社会福祉士養成課程の新カリキュラムの導入科目としてそれを位置づけるとともに、各国家試験受験資格取得の動機づけを高め、受講生が自身の将来設計に即した国家資格を選択できる機会となることをねらいとしている。

学生募集については、入試・募集委員会でその適切性について検証を行っている。具体的には、新入生アンケート（大学選択の時期、影響要因、受験した他大学、本学への関心度、募集イベントへの参加状況、広報物の認知度など）を実施し、入試・募集委員会でその結果を分析し、募集活動や入学者選抜方法の改善に活かすようにしている。また、オープンキャンパスでも、開催ごとに参加者にアンケート調査を行って内容に対する満足度を測定し、以降の催しの改善につなげている。なお、社会福祉学科に特化した取組としては、令和2年度に社会福祉学科に特化したパンフレットを作成し、県内の高等学校等に配付し、福祉の仕事や大学での学習内容に関する情報をPRしている。また、インターネットラジオに社会福祉学科の教員が出演し、社会福祉学科の学びについてPRを行っており、このような取組を通じて福祉に関するイメージの改善を進めている。さらに、高校からの要請に応じて行っている「出前授業」の内容についても改善を行い、より利用を促すことを計画している。

3) 将来の取組

聖カタリナ大学社会福祉学科は、全国的に社会福祉系の学科が廃止となる中、学部の教育研究目的である「ウェルビーイングの理念」の下、愛媛県で唯一の社会福祉学科として社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成を行っている。今後は、社会福祉学科の中・長

期ビジョンを明確にしていくために、現在、大学教育の内部質保証の一環として毎年度策定されている「学部年間計画」を充実させ、PDCA サイクルに基づく学科運営をより強化していく方針である。また、社会福祉学科の定員を充足するためには、18 歳人口の動態及び社会福祉を志向する学生数に見合った適切な定員の設定が避けられない課題としてある。このため、大学全体の中・長期ビジョンを策定する大学の「将来計画委員会」において社会福祉学科の「定員の縮小」及び「入学ニーズのある他学科への定員の再配置」等の検討を継続し、収容定員の充足を図っていく計画である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

聖カタリナ大学は、平成 29 年に、学部の教育研究目的のさらなる具現化と、その教育研究機能をより一層発展強化させるため、また、地域の保健・医療・福祉のニーズに応え、将来に向けた地域社会の持続的発展に貢献するため人間健康福祉学部看護学専攻を設置した。本看護学専攻では、地域包括ケアシステムの中で活躍できる、地域に根差した看護専門職の養成を目指し、学部教育を進めている。ここにさらに、大学院看護学研究科看護学専攻を開設することにより、教育研究機能の強化を図り、特に研究活動による地域包括ケアに関する知見に基づく教育を加味することによって、本学の教育力の向上を図ることを目指したいと考える。

本学看護学研究科看護学専攻の教育目的は、療養支援看護学分野及び特定実践支援看護学分野の研究教育を通して、多職種との連携・協働の視点を踏まえ、保健・医療・福祉を繋ぐキーパーソンとして地域包括ケアシステムの構築に寄与できる高度専門職業人を養成することである。そして、養成する人材像は、保健医療福祉における連携・協働を推進し、高度な看護実践能力を備えた人材であり、具体的には次のような人材である。

- 1) 地域包括ケアの推進と構築を支えるための臨床判断力を備えた人を養成する。
- 2) 地域の人々のニーズに応じて健康に関する諸現象を分析し、探究する力、マネジメントする力を備えた人を養成する。
- 3) 療養支援看護と特定実践支援看護分野を牽引し、地域の人々とともに歩む人を養成する。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1) 看護教員を取り巻く状況

看護系の大学院教育の役割には、臨床現場で働く看護職の専門的能力を高める教育を行うとともに将来、看護教育を担う人材を育成するという役割がある。平成 22 年 2 月に厚生労働省が報告した『今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書』においても「看護教員確保の観点から、看護教員の要件の対象とする大学における履修内容を拡大し、大学卒や大学院修了の看護職員の看護教員への活用が推進されるようにすることが必要である。」と指摘されている。このような状況の下、日本における看護系大学院の設置は右肩上がり増加しており、文部科学省高等教育局医学教育課によると令和 2 年度には、修士課程で 186 校（入学定員 2,762 人）、博士課程では 105 校（入学定員 651 人）となっている。しかし、看護系大学の量的拡大にあつて、新設大学のみならず、既設の大学も教員確保が困難な状況にある。一般社団法人日本看護系大学協議会が、平成 29 年 4 月に政府に提出した要望書では、看護系大学教員数はおよそ 7,000 人で、平成 27 年度の実績では、看護学修士 228 人、博士 123 人が大学等に就職していることが示されているが、大学院課程の設置状況から見れば、看護系教員の数的な不足は明らかである。現在、大学教育の質保証においては、大学院修了レベルの教員の確保が喫緊の課題となっていると考えられる。

(2) 愛媛県における医療の状況

本大学院が設置される愛媛県では、厚生労働大臣が定める基本方針に即し、かつ、地域の実情に応じて、切れ目のない地域の医療提供体制を確保するために地域保健医療計画を一期 6 年で策定している。この計画の「第 7 次愛媛県地域保健医療計画」（資料 6）の看護職に関する現状と課題において「医療の高度・専門化、高齢化の進展や疾病構造の変化、県民ニーズの多様化等を踏まえ、今後在宅ケアや人生の最終段階における医療、生活習慣病対策等、新しい需要に対応できる質の高い看護職員の養成・確保と研修体制の充実等による資質の向上が課題となっています。」(P. 328) との指摘があり、また、その対策として「大規模災害等の健康危機事案や、医療の高度化・医療ニーズの多様化に伴う、専門性の高い看護が提供できる、質の高い看護職員の育成に努めます。」(P. 329) と記されている。そして、本大学院の設置に関しては、この計画を策定している愛媛県を初め市及び愛媛県看護協会からも設置要望書（合計 8 通）が出されている（資料 7）。これらの要望書では、地域包括ケアシステムを推進する高度専門職業人の養成が求められており、本大学院の設置は、このような地域のニーズにも合致したものであると言える。

(3) 人材需要の調査結果

令和 2 年 12 月から令和 3 年 1 月にかけて本大学院の修了者に対する病院・医療関連施設等の採用意向を把握することを目的として、修了者の就職が見込まれる 6 県（愛媛県、

香川県、徳島県、高知県、岡山県、広島県)の病院・医療関連施設等(657施設)の採用担当者にアンケート調査(『聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)(仮称)の修了者に対する病院・医療関連施設等の採用意向に関するアンケート調査報告』)を実施した(資料8)。調査では、採用担当者にアンケート用紙及び本大学院の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ病院・医療関連施設等から直接郵送し、集計を行った。有効回答数は、197件であった。以下に、アンケート報告書に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

1) 本大学院の社会的必要性について

本大学院の社会的必要性についての質問に対して、回答のあった病院・医療関連施設等197施設のうち、「とても必要だと思う」51件(25.9%)、「ある程度必要だと思う」126件(64.0%)の肯定的な回答を合算すると177件(89.8%)の病院・医療関連施設等が必要性を感じている結果となった。

2) 本大学院修了者の採用意向について

本大学院修了者の採用意向についての質問に対して、回答のあった病院・医療関連施設等197施設のうち、「採用したい」17件(8.6%)、「採用を検討したい」60件(30.5%)の肯定的な回答を合算すると、77件(39.1%)の病院・医療関連施設等が採用意向を示す結果となった。

3) 本大学院修了者の採用人数について

本大学院修了者の採用意向について肯定的な採用意向を示した77施設に対して、本大学院修了者の将来的な採用人数について質問したところ、「1人」23件(29.9%)、「2人」7件(9.1%)、「人数未確定」47件(61.0%)の結果となった。

採用意向と採用人数を積算して算出した採用意向人数は、修了者を「採用したい」のみで合計は19人分となっている。入学定員は5人であるため、3.8倍の採用意向を確認できている。また、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した施設を合計すると84人分となり、これは入学定員5人に対して、16.8倍となっている。(表6)

表6 採用意向と採用人数

回答数(件)	「採用したい」のみ		合計	
人数(人)				
1人(A)	4	(a)	(A) × (a)	4
2人(B)	2	(b)	(B) × (b)	4
3人以上(C)	-	(c)	(C) × (c)	-
人数未確定(D)	11	(d)	(D) × (d)	11
無回答	-			
	合計採用意向			19人

回答数(件)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
人数(人)				
1人(A)	23	(a)	(A) × (a)	23
2人(B)	7	(b)	(B) × (b)	14
3人以上(C)	-	(c)	(C) × (c)	-
人数未確定(D)	47	(d)	(D) × (d)	47
無回答	-			
	合計採用意向			84人

以上の本大学院の修了者に対する採用意向調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられること、また、本大学院へ入学を希望する学生の多くは有職者が想定され、大学院の修了後は、それぞれの職場に復帰する可能性が高く新規の就職はそれほど多くない想定であることから、本大学院の修了後の進路については、確保できるものとする。

以 上